



民家の新種に住む ～大きな家で共に暮らす～

今回の地震において、瓦が一部落下する、壁に数か所ひびが入る等全壊や半壊には至らない一部損壊の住宅が数多くありました。この家でまた大きな地震が起きても大丈夫なのか、1人や2人で暮らすには大きすぎる、すきま風も入る、不便なこの家にこのまま住むべきか、建て替えるべきか、一人不安を抱えたまま暮らしている方が大勢いらっしゃいます。昔ながらの民家の持つおばあちゃんの家のようなどこか懐かしい佇まいは新築の家では決してつくり出すことが出来ないものです。この民家の良さを残しながらこれらのライフスタイルに合わせた安心して暮らせる新種をどう創りだしていくか、「早く・安く」ではなく、昔ながらの家造りと同じ様に「ゆっくり・丁寧に」、人のころろを少しずつほぐしていく様に…

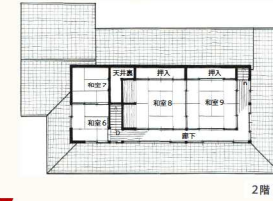


共有リビングより

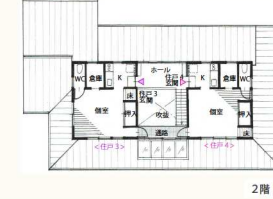
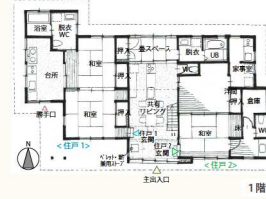
*平面計画

- ①中央の主出入口から共有リビングに入り、共有リビングを介して各住戸に入るプランとする
- ②共有リビングは南北に抜ける広い土間空間を持つ半屋外的「共」の空間とする
- ③各住戸はそれぞれの趣向合わせたプランとする

改修前平面図 S=1:200



改修後平面図 S=1:200



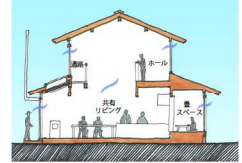
*断面計画

- ①共用リビング上部は木組みの良さの分かる小屋根を見せる形状とする
- ②2階ホールから全体を見渡すことが出来るプランとする

改修前断面図 S=1:150



改修後断面図 S=1:150



*凡例

- 出 既存の民家から出すもの
- 残 既存の民家に残すもの
- 入 既存の民家に新たに入れるもの

出 CB基礎



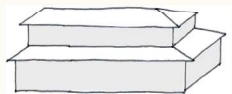
出 蟻害のある構造材



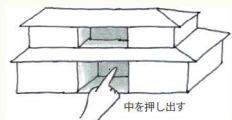
出 バランスの悪い壁配置



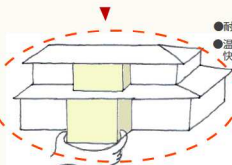
*新種のつくり方



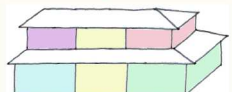
1人又は2人で暮らす東西に長い大きな家



中を押し出す



中に共有リビングを入り込む



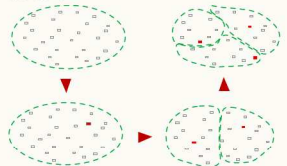
4世帯+aで過ごす新種の完成

- 耐震補強
- 温熱環境を含めた快適性の向上

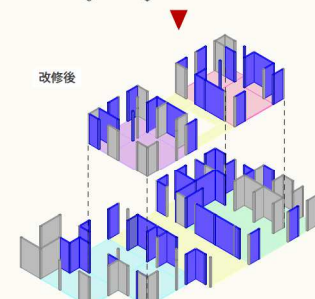
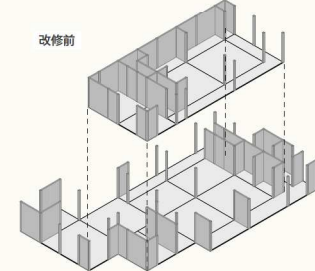
*新種の特徴

- ①分解の媒体となる共有リビングはこの住宅の住人だけでなく、近所の方々が普段から気軽に立ち寄ることができる場、災害時に近所の方々も含め安心して居ることの出来る場「近所リビング」的役割を果たす
- ②今までの民家を持つその土地の風土に合ったデザイン、木組みや木製建具等に見られる職人の技、自然素材の風合い等は残す
- ③それぞれの民家に合ったカタチで細胞分裂が行われ、新種がつくり出される
- ④地震で損壊を受けた住宅だけでなく、東西に長い大きな住宅の空き家活用にも応用可能
- ⑤2階は定住の場としてはもちろんのこと、移住希望者が孤立しない受け入れ先にもなりうる
- ⑥共に小さく暮らすこと、空間や物を共有することが自然環境に負荷をかけない暮らしにつながる

*新種の家が増えていく毎に担当範囲が小さくなり普段からふらりと立ち寄ることの出来る場、災害時に安心して居ることの出来る自分達の身近な場となっている



*構造計画 ～安心して暮らせる様に～



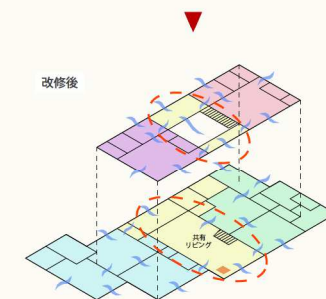
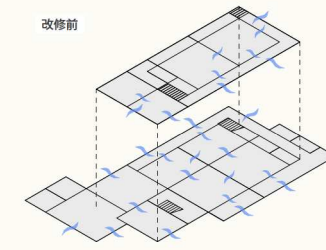
- ①昔ながらの民家によく見られる南面に開口部が多く壁量が極端に少ない壁配置を改良し、それぞれの面にバランス良く壁を配置し、耐力を確保する。
- ②昔ながらの民家によく見られる1階と2階の壁配置のバランスの悪さを改善し、2階の荷重が上手く1階に伝わる様に1階の壁配置を行う。また、2階の四隅の下の1階部分に柱が配置されていない場合は出来るだけ配置する。
- ③少し前の民家に見られるコンクリートブロック製の基礎、石場建て基礎は鉄筋コンクリート製基礎とする等適切な補強を施す。
- ④既存の瓦屋根が傷んでいる場合は軽い金属屋根に変更し建物重量を軽くする。

凡例

- 既存柱
- 既存壁
- 新設柱
- 新設壁

*環境的配慮 ～心地よく暮らせる様に～

*災害時への配慮 ～いざという時のために～



*共有リビングから建物全体を涼しく、暖かく

- ①南北に抜け、2階にわたり構成される共有リビング部分を通じて通風を確保する。各住戸自体の2方向以上の通風を確保すると共に共有リビングから各住戸への通風も確保する。
- ②2階南側通路にウッドパネル敷設可能なグレーチング床、1階共有リビング天窓下部に断熱ブラインドを設置することにより夏の日差しを遮り、冬の日差しを共有リビングに取り入れる。共有リビングに設置されたベッド・薪兼用ストーブにより建物全体を暖める。
- ③共有リビング床の土間コンクリート、壁の土壁という蓄熱性の高い素材を使用することにより暖かさが持続出来る様にする。
- ④床、壁(壁側から断熱材設置)、天井及び屋根に断熱材を入れると共に、外壁窓の開口部も複層ガラスサッシ等断熱性の高い開口部を取付け、断熱性能を向上させる。
- ⑤雨水槽、タンク等設置し、雨水の活用を行う。
- ⑥昔ながらのかまどや薪で沸かすことのできるお風呂は出来る限り残し、災害時に使用可能にする。